

vol. 2222

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館  
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

# 大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】佐伯印刷(株) 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



## 今号の掲載内容 (掲載順)

- 戦争体験を語り継ぐ決意を新たに—新組合員学習会 / 青年部平和学習の旅
- 第496回中央委員会開催
- 第33期労働講座
- 公務員の定年引き上げのための公務員法等一部改正案を閣議決定-3 / 13
- 第42回日教組九州地区協議会「2・11平和教育研究集会」
- 2019年度末退職者

## 戦争体験を語り継ぐ決意を新たに

新組合員学習会 / 青年部平和学習の旅 2020.2.22 ~ 24 沖縄県

2014年度以降加入の新組合員を対象とした今年度の新組合員学習会は、青年部の平和学習の旅と同時開催とし、フィールドワークを中心に沖縄での平和学習を行いました。辺野古や普天間飛行場で沖縄の置かれている「現在」の状況を実感するとともに、講演から沖縄の歴史や日米安保・日米地位協定の問題点について学習を深めました。

今回は、福岡高教組の「学びと学習の旅in沖縄」を軸に日教組九州地区協議会の各県高教組にも輪を広げ、最終的には、大分、福岡、熊本、鹿児島、沖縄から60人を超える仲間が集まり、交流を行いました。参加者にとって、同世代の仲間同士のつながりを深めるとともに、反戦・平和の運動と教育の意義とその重要性を再認識できる貴重な体験となりました。

参加者の皆さん (佐喜真美術館屋上にて)

### 《日 程》

2月22日(土)

集合・福岡空港発 === 那覇空港着 === 講演「沖縄の歴史と平和教育」 === 夕食交流会

2月23日(日)

ホテル発 === 辺野古地区視察 == (バス内にて昼食) == 読谷村(シムクガマ・チビチリガマ) ==  
== 宜野湾市(佐喜真美術館・嘉数高台公園展望所) === ホテル着

2月24日(月)

フリー・オプション見学

ホテル発 === ① 対馬丸記念館・不屈館見学 === 那覇空港発 === 福岡空港着・解散  
② 首里城見学

## 還 流 報 告 & 感 想

### ■「新組合員学習会・青年部平和学習の旅に参加して」

渡邊 龍也(青年部長・佐伯豊南分会)

今回、高教組の学習会に参加する形で、人生初の沖縄に行くことができました。初めての沖縄は、東南アジアのどこの外国にいるような、そんな感覚がずっとありました。それは、海や自然の独特な美しさからだけではなく、「ウチナンチュー・ヤマナンチュー」という言葉や、今までの自分の生活にはまったくなかった「基地」という存在、米国軍や日本

国政府に怒りの声を上げる人々、数々の平和遺構の存在が、そのように感じさせたのだと思います。

最終日の自由行動の時間に「旧海軍司令豪」に行きました。地中に人力で掘られた500mほどの洞窟。その中でも「下士官室」と呼ばれる部屋とも言えないただのスペースに、私は何とも言えない恐怖を感じました。そこは、兵士たちが立ったまま睡眠や休息をとるスペースでした。攻め込まれた時に、多くの兵士がそこで命を落としたそうです。手榴弾で自決をした時の生々しい跡も壁にたくさん残っており、胸を締め付けられるような感覚に襲われました。当時の状況を記録した写真も多くあり、戦争が生み出す悲惨な事態を知りました。

沖縄の地に実際に訪れ、五感で感じることができて本当によかったと思います。できることなら1年に1度は訪れて、この思いを風化させないようにしたいです。「教え子を再び戦場に送らない」ことはもちろん、世界中のどこであっても、二度と戦争をしてはいけないと感じました。私にできることは、この思いを伝え広めていくことだと思います。



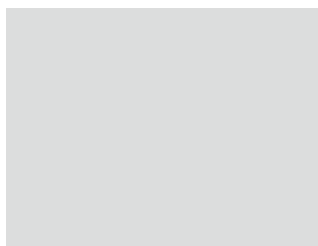
**講演：沖縄の歴史と平和教育**  
**講師：山本隆司さん（前沖縄県教組委員長）**

■「沖縄から見る日本の平和（沖縄県教育会館にて）」

中尾翔太郎（中津東分会）



学習会の様子



講師の山本隆司さん

沖縄県教育会館は教育関係者の慰霊碑もある復帰闘争の拠点です。冒頭で「平和とは何か」と問われ、私は明確な答えを出せませんでした。また、「教え子をふたたび戦場に送るな！」の主語は何かという問いもありました。主語が「日本国政府」であった場合、当時の間違っただけの教育を強いられた被害者としての視点となり、主語が「私たち」となると、間違っただけの教育をした加害者としての視点になる。私は、この加害の視点を意識したことがありませんでした。教員も権力者であり、子どもにも与える影響は大きい。私の前にも子どもたちがいます。平和学習を担当した際、場当たりの授業であったことを反省しました。50年以上前からヨハン・ガルトゥングさんは「戦争しない=平和」ではなく、貧困・差別・抑圧のない状態が平和と提起しています。戦争がなくとも差別はあり、戦争という極限状態は差別のフィルタが外れているだけなのです。報道などで沖縄の現状を聞きますが、どこかに他人事であるという無自覚の差別をしてしまっていました。「沖縄の問題ではなく、日本の問題である」と捉えなければなりません。お話を聞き、日米安保・地位協定が成立するまでの背景、日本・沖縄の現状について自分の勉強不足を痛感しました。知らないからこそ、平和や沖縄について考えることができない。しかし、自分にはまだ伸び代が多いと前向きに捉え、研修などにもっと参加しようと意識が変容したと感じました。

**沖縄県教育会館**：戦災校舎復興運動や復帰闘争の拠点と沖縄戦で犠牲になった教職員、児童生徒らの慰霊の場として1954年9月に落成。3階ホール奥には沖縄戦で犠牲になった児童生徒や教職員7610人の名前を記した慰霊碑がある。2021年3月に取り壊される予定。



**辺野古**

■「自然豊かな辺野古海岸に広がる大きな違和感」

麻生 真美（佐伯豊南分会）

辺野古に到着して最初に訪れたK-1護岸周辺には基地との境目に高い金網が立ち、その境界からは警備員がこちらの様子を観察していました。海岸では、カヌーの練習を行っている人たちもいました。海からの反対運動を行うために操縦の練習を行っているそうです。金網の向こう側にはいくつものクレーンが立ち並んでいました。

対岸に移動してからは、高台から海の全体を見渡し、埋



立の状況を確認したり、休憩時には海岸にも立ち寄りたりしました。そこには私がイメージする「沖縄の海」が広がっていました。白い砂浜、透き通った水の海。しかし、その奥には黒々とした大きな船がいくつも並び、違和感を覚えました。この海にはジュゴンやウミガメをはじめ、数多くの生物が生息しているようで、海の底に広がるネットにより生き物の生態系が崩れてしまうことや海が汚染されてしまうことが懸念されています。

移動中の車内では、沖縄の方々の思いや辺野古の反対運動の現状の話がありました。1つひとつの言葉が重く、考えさせられることばかりでした。

辺野古の問題は、これまでもニュースで見聞きしたことがありましたが、政治や法律の学習をして、実際の現場を見て、住民の方々の思いを聞き、どれだけ自分が無知だったのかに気づかされました。今回の見学を通して、自分が体感したことを忘れずに、学習を深めたいと思います。



### 読谷村 (シムクガマ・チビチリガマ)

#### ■「平和と戦争」

緒方 里美 (別府鶴見丘分会)

読谷村では2つのガマの見学をしました。まずはシムクガマです。シムクというのは沖縄方言で台所という意味だそうで、周辺を雑木林で囲まれた広い空洞がありました。ここに避難した約千人の人は、全員生き残りました。ハワイに在歴があり、英語が話せる2人の人物がリーダーとなり、アメリカ兵との交渉を行ったそうです。その2人がいなかったら、きっと全員が無事ではなかったと思います。

チビチリガマはシムクガマと違い、避難した人々は集団死を選び、84人が死に追い込まれました。英語の話せる人物がおらず、米兵と交渉する手段もない状況でした。当時、女性たちは米兵に襲われると教えられ、凌辱されたあげく殺されるよりも、きれいな体のまま死にたいという思いで母が子を、夫が妻を、手にかけてました。毒で死ぬ人もいたそうです。ガマの奥には遺骨がまだ残っています。



シムクガマ



チビチリガマ

ガマの見学で、戦争の被害者の様子を詳しく知ることができました。このような思いはしたくないし、自分の周りの誰かにもさせたくないと思いました。戦争の起こらない世の中を心から願います。

**シムクガマ**：総延長2,570メートルほどの天然の鍾乳洞で米軍進軍の際は住民ら約1000人が避難。米軍に発見されたとき、ハワイ移民の帰国者2人の説得と米兵との交渉により、全員投降して犠牲者は出なかった。

**チビチリガマ**：鬼畜と教えられたアメリカ兵の残虐な仕打ちを恐れ、肉親相互が殺しあうという凄惨な地獄絵図を現出したといわれる「集団死」が行なわれ、84人の尊い命が奪われた。

### 宜野湾市 (佐喜真美術館・嘉数高台公園)

#### ■「平和への祈りと米軍基地」

精舎真理子 (大分雄城台分会)



佐喜真美術館



普天間飛行場

読谷村で見学した2つのガマの絵を佐喜真美術館で拝見しました。集団死が起きた「チビチリガマ」の絵には、米軍と戦うために竹槍を持った人や、狭い洞窟にひしめく人々が描かれます。ハワイ帰りの男たちが住民を救った「シムクガマ」には、人気のない洞窟が広がります。皇民化教育に殺されゆく人々と、「命どう宝」の精神を捨てなかったゆえに解放された人々が対比されているようです。

2つのガマを描いた丸木位里さん、俊さんは、日本で唯一の地上戦を体験した沖縄の人から学ぶべく「沖縄戦の図」を描いたそうです。しかしこの絵を受け入れてくれる美術館はなく、佐喜真道夫館長が米軍に奪われた先祖の土地を取り返し、一から美術館をつくり上げました。普天間基地に食い込むように美術館が建つのはそのためです。

「沖縄戦の図」には傷つき倒れる沖縄人たちが描かれ、救いがないように見えます。しかし、現実の戦いでは爆弾で四肢を破壊された人々が、絵の中では着物を着て、五体満足で描かれているのです。また、住民を死へ追い詰めた軍人や政治家は描かれておらず、女性や子ども、年寄りなどの弱者ばかりです。人間の尊厳を大切にしたいという画家の思いからでしょうか。

美術館の後に向かった嘉数高台公園は、寒緋桜が咲く憩いの場です。展望台に上がれば、普天間基地やオスプレイが眼下に見えます。沖縄の平和の象徴と米軍基地が同居する空間、それが佐喜真美術館であり、嘉数高台公園なのです。

佐喜真美術館：一部返還された普天間飛行場の用地に1994年に開館。丸木位里・俊夫妻による「沖縄戦の図」の常設展示している。

嘉数高台公園：沖縄戦時の激戦地で、今でも日本軍が使用した「トーチカ」があり、展望台からは普天間飛行場を見渡すことができ、オスプレイも見ることができる。

那覇市(対馬丸記念館・不屈館、首里城)

■「首里城を目の当たりにして」

釜元 健児(中津東分会)

私は今回参加した旅において、たくさんの事を考える機会をもらいました。そのうちの1つに最終日に訪れた首里城の火災後の現状を見学したことがあります。大学生活を沖縄で過ごしたため、私にとっても首里城はそこにあることが普通であり当たり前前の存在でした。火災の報道があった時、数人の友人と連絡を取りましたが、みんなが口々に何とも言えない喪失感を感じていました。地元にあるがゆえに、そう何度も訪れる場所ではないのに何故そこまでの喪失感があるのか…実際に見学し、沖縄に住む人と話をすることで私なりに考えました。沖縄という土地は他県に比べても地元意識が高く「日本国民であること以上に沖縄県



民であることに誇りをもって」と学生時代に沖縄県民と交流する中で感じる事が多くありました。首里城というのはそういった沖縄を象徴するシンボルであったと思います。沖縄と

いう土地を愛し、誇りを持って生活している「うちなーんちゅ」にとって首里城を失うことは想像をはるかに超えるショックだったと思います。見学した時も朝早い時間であったにもかかわらず多くの人が訪れていました。復興支援もかなりの金額がすでに集まっているという話もありそれだけ大切な存在であったということを再認識しました。私も実際に目の当たりにしてみると大きなショックを受けました。今回の研修を通して多くの事を考える機会になり、今回感じた事をさらに掘り下げて考えていきたいと思いました。

対馬丸記念館：対馬丸事件の犠牲者の鎮魂と子どもたちに平和と命の尊さを教え、事件を正しく後世へ伝える為につくられた記念館。

不屈館：沖縄の祖国復帰と平和な社会の実現をめざして命がけで闘った、瀬長亀次郎(元衆議院議員)の残した膨大な資料を中心に、沖縄の民衆の戦いを後世に伝えようと設立された資料館。

首里城：琉球王国の政治、外交、文化の中心だった国王の居城。沖縄戦を含め4度消失し、復元を繰り返してきたが、2019年10月火災により正殿が消失し現在復旧工事を行っている。



対馬丸記念館



不屈館

第496回中央委員会開催

と き：2月19日(水) ところ：教育会館201研修室

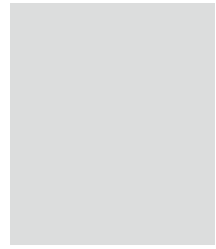
第496回中央委員会が開催され、本部が提案した秋季年末闘争などの中間総括と年度末・年度初め、春季生活闘争などに対する当面のとりくみが承認されました。

\*\*\*\*\*

執行委員長あいさつ(要旨)

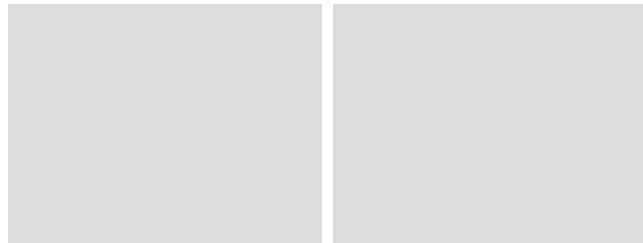
先日の高教組役員選挙で、立候補者全員が信任されました。新役員一同が、組合員の期待に応え2020年度の高教組運動を担う決意であることを、会の冒頭に、皆さんにご報告いたします。

さて、新型肺炎のニュースばかりが取り上げられていますが、相変わらず安倍首相はわたしたち国民に背を向けたまま、政権維持にのみ終始しています。政権を擁護する立場からは、「国家の一大事の時期に、国会で野党はいつまで桜を見る会の追及を行っているのか」という意見も出ていますが、首相の「説明責任」を全く果たそうとしない態度は、安倍政権が国政を付託するに値しないことを物語っています。大分県では、日出生台での米海兵隊の演習で、県や地元自治体との確認書の合意事項を破り、夜間20時以降の砲撃訓練を我が物顔に行っています。まして、地元住民が直接海兵隊ではなく、九州防衛局を通じてしか抗議や申し入れができない現状は、この国の政府が国民とアメリカ、どちらの側を向いているかを物語るものであり、やはり選挙によって、現政権の有り様に明確に反対の意思を示すしか、これらの難局を打開する方法はありません。おそらく五輪後と予想される、総選挙において、野党共闘に期待しつつ、特に2区吉川はじめを選挙区で勝利させ、安倍政権を打倒しようではありませんか。



来る2020年度は、給特法の改正、臨時的任用職員制度の導入など、学校現場に大きな変化が予想されます。給特法の改正では、あくまで教育職には限定4項以外の超勤はないという、法の基本は変わっていません。月45時間、年360時間の上限ガイドラインは示されたものの、超勤縮減は管理者の責務です。しかし、ともすると、上限ガイドラインさえ超えなければ良いと高をくくる管理職が多くでそうです。わたしたちは職場でしっかり討議し、管理職の姿勢を正し、超勤縮減策を立てさせねばなりません。

今年度も残りわずかとなりました。課題は山積していますが、年度末のとりくみの総括、年度初めのとりくみの方針について、本中央委員会で真摯な討議が行われること期待して、執行委員会を代表してのあいさつといたします。



議長：三代圭庭さん(竹田分会)、神谷浩幸さん(津久見分会)  
 議事運営員：藤岡親也さん(鶴崎工業分会)、畑野美智子さん(ろう分会)、一井ひろえさん(日田支援分会)

## 討 論

### ◇教育文化活動のとりくみ

女性部：高校入試の願書から性別欄が削除された。性的少数者への配慮のため「選べる制服」について、「性別で分けられない名簿」と同様高教組が先頭にたってリードするべき。

障害児学校部：(司会者として全国教研) 大学入試のスマホからのエントリーやe-ポートフォリオなど教育の商業化が進んでいる。義務制の課題ではあるが全国学力調査でも障害をもつ子どもが排除されるなど、弱者にしわ寄せがいつている現状を注視しておく必要がある。

日田三隈：大学入試共通テストの英語民間試験や国語・数学の記述式が見送られたが、学びの基礎診断では、多くの学校である民間企業の商品が使われている。中止にすべき。

### ◇教育予算増・定数増のとりくみ

日出総合：来年度新採用だが出産のため着任が猶予される方が、来年度中に着任しないと採用取り消しになるといわれた。

大分雄城台：新型コロナウイルス感染症へのしっかりとした対応を県教委に求めてほしい。

障害児学校部：新しい臨時・非常勤制度について、長年とりくんできたことがやっと動いた。もっとアピールしてもよいのではないか。

チャレンジ雇用は現場任せになっている。

### ◇賃金引き上げ・生活向上のとりくみ

日田三隈：部活動指導にかかる特勤手当が減額になった。部活動の顧問は

様々犠牲にしている。

大分雄城台：部活動顧問を特活主任が決めているのは適切なのか。全員顧問制の学校も多くあるが、拒否できるのか。部活動のあり方について考えていく必要がある。

### ◇平和と民主主義を守るとりくみ

日出総合：高退教から協力が得られるようになった。高校生1万人署名活動に高教組、特に青年層が協力してくれると嬉しい。

### ◇民主的な職場づくりのとりくみ

現業職組：臨時的任用職員から会計年度任用職員となる現業職員の状況について、全組合員が認識しておく必要がある。

日田三隈：希望のない3年未満の異動を許さないでほしい。主幹教諭についても管理職によって職務がまちまち。短期の異動にもなりやすく、業務の継続性が乏しくなる。

女性部：職場の多忙化を解消するために、皆で業務削減の具体について話し合っていくべき。

大分雄城台：現場の教職員の数を増やしてほしい。

高田：目標管理シート、スクールマイプラン等を作成しなければならないが、目標が数値化され、子どもの立場に立ったものになっていない。

### ◇組織強化・拡大のとりくみ

障害児学校部：学校は「教育職」だけで成り立っているわけではなく、様々な職種の職員がおり、それぞれの課題を共有し一緒に闘っていこう。

### ◇その他

宇佐産業科学：教職員の子どもに対する不適切な行動がとられていることについて、業務用携帯電話の支給など高教組から働きかけていく必要があるのではないかと。

日田三隈：(携帯電話を)子どもとのコミュニケーションツールとして使わざるを得ない状況がある。

安心院：連携型入試でほぼ全入。支援の必要な子どもがいるのに支援員が配置されない。支援員の配置状況と通級指導の実施状況が知りたい。

## 2019年度 第33期労働講座

と き：2020年2月1日(土) ところ：九州労働金庫大分県本部会議室

今日的な教育文化、政治経済等の運動諸課題について学習を深めることを目的に開催する労働講座は今年度で33期を迎えました。今期の労働講座は、定年延長を中心に地方公務員を取り巻く情勢と課題、私たちが連帯する労働福祉運動について、そして大分県教育行政についての講座が行われました。

これまでの私たちのとりくみの成果が確認できただけでなく、今後解決すべき課題の共有ができ、半日ではありましたが有意義な講座となりました。

### 講座Ⅰ 「地方公務員をとりまく情勢と今後の課題について～定年引き上げの課題を中心に～」

講師 加藤 達夫 さん(公務公共サービス労働組合協議会副事務局長・日本教職員組合特別執行委員)

講座Ⅰは、現在、私たち公務員をとりまく情勢と課題について、私たち公務員にとって大きな関心事の1つである「定年延長」を中心に据えての話でした。現在開会中の通常国会に提出が予定されている「国家公務員法改正案」では、「定年年齢65歳への段階的引き上げ」「60歳役職定年制の導入」「定年前再任用短時間勤務制度(仮称)の導入」「60歳に達した職員の給与と退職手当に関する特例」などの措置を講ずるといった内容となることが想定されています。私たち地方公務員についても国公準拠が原則ですので、ほぼ同じ方向での改正となることが予想されますが、条例改正に向けては、私たちとの交渉で妥結してからとなりますので、今後、地公労に結集する仲間とともにとりくみをすすめていきます。

#### 《参加者の感想》

- ・組合から人が出て、文科省や総務省との交渉・協議を重ねて、私たちの生活を支えてくれていることを再認識することができた。
- ・漠然と持っていた不安をずいぶん解消することができました。
- ・「すべては国会で決まる」という言葉が印象的で、組合活動の必要性を改めて感じました。

### 講座Ⅱ 「労働者自主福祉運動の理念・歴史と今日的課題」

講師 麻生 雅晴 さん(九州労働金庫大分県本部副本部長)

講演Ⅱでは、労働者自主福祉運動の理念と歴史について、高教組も経営に深く関わっている九州労働金庫(ろうきん)誕生と労働組合との関りを中心とした話を通して学習を深めました。戦後まもない頃の銀行は、労働者や労働組合に対する融資を行っておらず、「労働者のための銀行を」との思いでろうきんは設立されました。それ以降、連帯と協同の実現をめざし、「非営利の金融機関」として労働運動・生協運動とともに歩んでいます。私たちは、相互扶助を設立の理念の中心におく、ろうきんや高校生協、教職員共済等の各労働者福祉団体との連帯を強める必要があります。

#### 《参加者の感想》

- ・改めてろうきんの意義を認識することができました。
- ・ろうきんの哲学にある「相互扶助」の心を今一度見直すことが現場でも求められていると痛感しました。
- ・組合員にその意義や利用することが、いかに価値あるかをもっと浸透させるべきだと感じました。

### 講座Ⅲ 「県政報告」

講師 尾島 保彦 さん(大分県議会議員・大分県高等学校教職員組合特別執行委員)

講演Ⅲでは、尾島県議からの県政報告でした。2018年度途中から始まった教員のタイムカードによる勤務時間の把握では、「時間外勤務の時間数・人数とも減少しているが、実感を伴うものとはなっていない、との認識の下、引き続きとりくむ」、また、新たな教育課題(新学習指導要領と高大接続、STEAM教育の実践、情報科学高校にみられる高校と産業界との連携など)についても、「現場の声を踏まえての活動を進めていく」とのことでした。最後に、「高教組組合員の期待に応えられるように頑張っていきたい」との決意を述べられました。尾島県議は私たち組合員の声を県政に届ける重要な役割を担ってくれています。引き続き尾島県議との連携を深めていきます。

#### 《参加者の感想》

- ・STEAM教育や全国産業教育フェアにかなりの予算が充てられることに驚いた。
- ・現場の声、組合員の声を伝え続けていただいたおかげもあって、労働環境や教育内容の改善もしくは改悪阻止につながっていると実感できました。

# 公務員の定年引き上げのための公務員法等一部改正案を閣議決定 -3/13

政府は、3月13日の閣議で「国家公務員法等の一部を改正する法律案」及び「地方公務員法の一部を改正する法律案」について決定し、国会に提出しました。

## 1. 地方公務員の定年年齢の段階的引き上げ

○地方公務員の定年を2020年度から60歳から65歳まで2年に1歳ずつ段階的に引き上げ

## 2. 役職定年制（管理監督職勤務上限年齢制）の導入

## 3. 定年前再任用短時間勤務制の導入（対象：60歳に達した日以後定年前に退職した職員）

○本人の希望により、短時間勤務の職に採用（任期は65歳まで）

## 4. 情報提供・意思確認制度の新設

○60歳に達する日の前年度に、60歳以後の任用、給与、退職手当の情報提供、60歳以後の勤務の意思確認

## 5. 給与に関する措置（条例において、必要な措置を講ずるよう要請）

- ・60歳を超える職員の給料月額を、60歳前の7割水準に設定
- ・60歳に達した日以後に、定年前の退職を「定年」を理由とする退職と同様に退職手当を算定する。

《雇用と年金の接続のイメージ》

		60		61		62		63		64		65				
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	
1960年度生まれ	年齢	60	61	62	63	64	65									
	働き方	定年	暫定再任用（フル・ハーフ）													
	年金															
1961年度生まれ	年齢	59	60	61	62	63	64	65								
	働き方		定年	暫定再任用（フル・ハーフ）												
	年金															
1962年度生まれ	年齢	58	59	60	61	62	63	64	65							
	働き方				定年	暫定再任用（フル・ハーフ）										
	年金															
1963年度生まれ	年齢	57	58	59	60	61	62	63	64	65						
	働き方					定年	暫定再任用（フル・ハーフ）									
	年金															
1964年度生まれ	年齢	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65					
	働き方						定年	定年	暫定再任用（フル・ハーフ）							
	年金															
1965年度生まれ	年齢	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65				
	働き方							定年	暫定再任用（フル・ハーフ）		定年					
	年金															
1966年度生まれ	年齢	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65			
	働き方											定年				
	年金															

制度の詳細については、追って日教組から学習資料が発行されます。高教組では、引き続き組合員への情報提供に努めます。

## 第42回日教組九州地区協議会「2・11 平和教育研究集会」

と き：2月10日（月）、11日（火） ところ：ホテルパレスイン（鹿児島市）

日教組九州協議会「2・11 平和教育研究集会」は、鹿児島県で開催され、九州各県から約120人が参加し、大分高教組からも6人が参加しました。分散会では、佐藤立也さん（日出総合分会）が「『高校生1万人署名活動』大分でのとりくみを通して」と題したレポートを発表しました。

\*\*\*\*\*

### 第1分散会

吉岡 賢二（津久見）

他県では、教育の中立性の名の下に組合攻撃がされている現状を知りました。平和学習や主権者教育が提案しにくい状況の中、リポーターの方々の創意工夫しながら子どもたちのために伝えていく姿勢にとっても勇気づけられました。協議の中での「事実をきちんと伝えていくことだけで

も私たちの思いは伝わる」との意見に共感しましたが、やはり教員は自分の意見、考えを子どもたちに対し発言すべきだとも思いました。

### 第2分散会

佐藤立也（リポーター・日出総合分会）

熊本のリポーターは、学校での平和教育にとりくむ上で大切にしていることとして「今、世の中で起こっているこ

とに目を向ける」ことと語りました。大分でも「高校生一万人署名活動」を広げていくために、平和大使を中心とした活動メンバーに県教研や支部教研、また、その他で報告の機会をつくる。同時に、活動にとりくむ高校生に学習の機会をつくりたい。欠かせないのが大人のサポートの充実。今何が起きているのかをそれぞれが学習しながらつくりあげていくことが必要だと感じました。

### 第3分散会

藤川 郁雄(佐伯豊南)

『『平和が一番大事』～地域の方々の思いを受け止め、語り継いでいく子どもたちに～』と題して、木許千尋さん(大分県・臼津支部)からの報告がありました。小学校の総合学習の時間を通して、2014年度と2018年度に3年生のクラス担任として、地域の戦争体験者より学校近くの土橋空襲の話聞き、聞くだけでなく、その内容からスライドを用いて、全校の生徒に発表した。また、その後、土橋空襲のときに住民が避難した平清水大防空壕の見学を行い、防空壕の暗さが生徒の心に刻まれたようです。高校では、ここまで、深く戦争のことを学ぶ機会がないので、素晴らしい総合学習だと思いました。

### 第4分散会

河村 幸生(大分西分会)

開会行事の後の講演では、鹿屋市の戦跡を通して平和を考えるというテーマで平和ボランティアをしている迫睦子さんのお話でした。戦争体験集の作成、小中高生へのガイドや一般の方へのガイドについて、特攻隊の悲劇が特に心に刺さりました。分科会では、米軍基地を取り巻く沖縄の現状と6月にある沖縄での平和学習についての報告がありました。「2度と戦争はしない」という沖縄のリポーターからの言葉が大変印象に残り、改めて自分を問いなおしました。

### 第5分散会

福田晃一郎(臼田定時制)

鹿児島・特攻隊・平和といえば知覧。ぼくの頭はこれで埋め尽くされていたから、ぼくは「恥乱」になった。種子島高校のレポートはオーソドックス(夏休み課題:調べ学習)だった。ぼくらは、いま自分が暮らしている・住んでいるこの地について、もっと意識をもって学ぶ機会を自らつくり、ともに語ることをせねばならないんだ。ヒロシマ・ナガサキ・オキナワはもちろん大切。でも種子島高校のレポートのように「いま自分がいる地」の学習も必要なんだ。

## 2019年度末 高教組退職者



この3月をもって27名の組合員の方々が退職を迎えられました。

これまでの高教組運動へのご協力に深く感謝いたしますとともに、これからのご健勝とご多幸をお祈りいたします。

長い間お疲れ様でした。これからも、お元気で活躍ください。

分会名	教科・職種	名前	分会名	教科・職種	名前
宇佐	理科(生物)	佐々木 剛	大分商業	商業	吉川 昌宏
国東双国	学校司書	河野 裕子	大分西	数学	蔵本 盛生
日出総合	理科(化学)	坂本 成司	大分西	事務	丸田 光一
日出総合	養護教諭	佐藤 陽	爽風館定時制	国語	用正美由紀
別府鶴見丘	数学	梶原 正弘	爽風館通信制	国語	麻生 周典
別府鶴見丘	数学	佐藤大司郎	三重総合	英語	若杉 宜子
別府鶴見丘	理科(生物)	屋田 良一	竹田	事務	村上 清美
別府鶴見丘	英語	丸山 公久	久住高原農業	数学	津江 宏
別府支援	理科(生物)	田川 智之	竹田支援	事務	高山 裕子
大分上野丘	理科(化学)	池田 進一	臼杵	英語	平岩 洋子
大分上野丘	保健体育	大津 裕也	佐伯鶴城	地歴(世史)	高橋 祐二
大分南	家庭	南 富美子	佐伯豊南	英語	萩原 明子
大分工定時制	理科(化学)	財津 剛久	佐伯豊南	養護教諭	吉良 美鈴
大分工定時制	英語	兒玉 辰彦			